第二十一回本郷ふじやま公園古民家歴史部会歴史散策(東海道)

平成１９年７月５日(木) ＪＲ東戸塚駅東口 10 時 00 分集合同刻出発
当日 6 時 25 分のＮＨＫ天気予報降雨率 50 ％以上の時は翌週１２日(木)に順延します。

行程；ＪＲ「東戸塚駅」バス移動→「保土ヶ谷町」→1出羽三山供養塔→2樹源寺→3帝釈天・旧元町橋跡→4神奈川坂→5元町由来標識・いちはつの花→6権太坂改修記念碑・松並木→7英連邦戦死者墓地→8投込塚→9境木立場跡→10境木地蔵→11萩原代官屋敷・道場跡→12焼餅坂→13品濃一里塚→14平戸の梨園→15品濃坂→「東戸塚駅」。
今回はこのコースを逆行します。　昼食は樹源寺手前の「手打ち蕎麦木村」の座敷でゆっくりと蕎麦を楽しみます。　ザル 500 円　ﾓﾘ 550 円　ﾄﾛﾛ 780 円　ｶｷｱｹﾞｿﾊﾞ 880 円　など。

一口メモ

「Ⅳ」保土ヶ谷宿から塚宿へ

１・出羽三山死者の霊に供物を供え、冥福を祈る塔。かつて湯殿山講中が有ったことから、建立されたと思われる。羽黒山・月山・湯殿山と刻まれている。

２・樹源寺
真言宗から日蓮宗総本山身延山久遠寺末・東方山医王寺・本尊，一塔・両尊・４菩薩。開山は心了院妙秀日正尼，開基は善領院日領上人。鎌倉時代までは，東方山医王院と称し真言宗の大きな寺でしたが兵火により，薬師堂だけの廃寺同様でした。寛永年間(1624~43)初期に保土谷宿の豪族，本陣，苅部吉重（２代）の妻が日蓮宗に帰依し薬師堂の脇に庵を建て，日蓮宗身延山久遠寺末寺として開山。明治時代劇作家・詩人・政治家の山崎柴紅の墓・寺の名の由来と言う，樹齢７００年（市保護木指定）の大ケヤキ昭和４６年枯れてしまった。

３・帝釈天・旧元町橋跡
帝釈天堂のお堂の中には「庚申塔」や「地神講」の祭事で使われた掛軸が保存されている。これらは石仏として多く見られるが掛け軸は珍しく，貴重なものです。堂外には多くの石仏，石塔などがある。この帝釈天は，近隣の人達が一年中交替で当番制でお守りしている。
旧元町橋跡明治２０年の東海道線鉄道工事以前の今井川は此処で，街道を横切っていました。橋は「東海道分間述絵図」にも描かれている。

４・神奈川坂
古東海道
江戸時代初期の東海道の保土ヶ谷宿（元町）から神奈川方面へ向かう坂なので「神奈川坂」と呼ばれたが位置は諸説有り，通説は元町ガードから花見台へ登る坂を言う。

５・元町由来
いちはつの花（菖蒲に似た花）　元町の名は元町橋に残っているが，その由来は「新編武蔵風土記稿」に見る事が出来る。「保土谷宿も昔は元町の所にありしを慶安年中(1648~51)にこの所に引き移せしと言う。これより元町のなが起これり」いちはつの花は保土ヶ谷宿内元町あたりの軒を連ねた民家の茅葺き屋根の上に咲いている様子が珍しく，旅人の評判になった。明治の初め，ロシア人マキシモウイッチがこの趣のある風景を賞し，外国にまで知られる様になり，昭和３０年頃まで保土谷の名物として神奈川県の観光案内にも紹介されていた。

6・権太坂改修記念碑・松並木

明治１７年新道開通，明治２０年鉄道開通で狭くなった。　　旧東海道権太坂は，新道（現国道１号線）が出来た後，昔ながらの旧道であったが，昭和３０年時の横浜市長，平沼亮三氏より１５００坪の道路用地の寄贈を受け，拡幅と切通しにより改修を行った記念碑。

7・英連邦戦死者墓地

昭和２１年６月２８日に連合軍に接収。昭和２７年７月１日解除が決定，墓地という特殊状況から昭和２９年横浜市は国を経由し英連邦側（イギリス）に売却を決定。その代替えとして隣接地を買収し，現在の児童遊園地を整備。墓地には第二次大戦で捕虜として亡くなった将兵１５１８柱の霊が眠っています。イギリス・オーストラリア・ニュージーランド・カナダ・インド・パキスタンなどの，様々な植物に囲まれ，春の桜は見事で名所となっている。

8・投込塚

江戸時代，旅の途中，病気などで亡くなった無縁の人達は街道筋の穴に投げ込まれ葬られたと言う。昭和３６年，此の地域の宅地開発が行われた時，周辺から数多くの人や馬の骨が発掘されと言うことです。これらの枯骨は平戸町の東福寺に葬られた。枯骨の発見された場所の近くに塚が設けられ，「投込塚記念碑」と供養塔が建っている。

9・境木立場跡

江戸時代街道で人夫や駕籠の休息・休憩所であった。彼らが息杖を立て掛けた処からこの呼び名が出た。　明治以降人力馬車の発着，休息､休憩場所になった。

10・若林家(黒塀門構えの旧家)

門内には明治天皇が「御東幸御小休所」の立て札が見える。

11・境木地蔵

大ケヤキ・武蔵相模国境杭があって境木地名・金の集まる縁起の良い地蔵さん・茶店軒並。
地蔵堂は万治２年(1659)に創建されたが，地蔵は何時頃か不明。地蔵伝説；昔鎌倉由比ヶ浜に流れ着き，浜に祀った処，ある年の大水で再び海中に没した。長い年月後，腰越浜に打ち上げられた。漁師持ち帰り安置すると夢に現れ「江戸へ行きたい，皆の衆に頼んで，牛車で運んでほしい。もし途中で動かなくなったら，そこへ置いてくれればよい。そうすれば腰越の海は凪（け静まる）ぐであろう」村人が境木まで来ると牛車が動かなくなったので，そこに降ろしてして帰った。境木の村人はどうしたものかと思案していた処、夢枕にに「堂を作ってくれ，その礼としてこの地を繁盛させてやる」いわれた。こうしてこの堂を作ったと伝えられています。

12・萩原代官屋敷・道場跡

石段を下りると瓦葺きの門があり、以前は「萩原代官屋敷、萩原直新影流」と書かれた札が懸かっていた。今は確認していない。かつて近藤 勇が止宿したとの記録があるといいます。

13・焼餅坂

この坂の上に「焼餅」(牡丹餅)を売っている茶店があった。十返舎一九の東海道膝栗毛にもこの記述り街道の名物であった。

14・品濃一里塚・赤関橋

土橋；巾２間半、長５間・馬洗川、上柏尾村、永谷川・品濃口～松並木。　江戸・日本橋から数えて９つ目の一里塚（現地図上，約３８ｋｍ）、一里塚は当時街道に一里ごとに土を盛りエノキ・マツ・ケヤキ・ムク等を植え目印とした、遠くから見えると言うだけでなく、木陰で体を休め、風や雨などをしのぎ、旅人にとって大切な場所であった。品濃一里塚は県内で、ほぼ完全な形で残っている唯一の一里塚です。権太坂程高低差は無いが、戸塚宿到着手前の難所、「尻押し」商売人もいたと言う。

15・平戸の浜梨畑

区内でも貴重な農業専用地区の一つ７軒の農家が生産・８．８ヘクタール。四季折々の季節の果樹が実り，とりわけ梨の花が満開になる頃は見事。夏「豊水」やあ「幸水」などの収穫期に多くの人々が尋ねて賑わっている。観光果樹園としても，もぎ取りが中心。桃，葡萄，柿，栗と一年中この里の果樹の花と香りのたえない花園である。

16・帝釈天王社

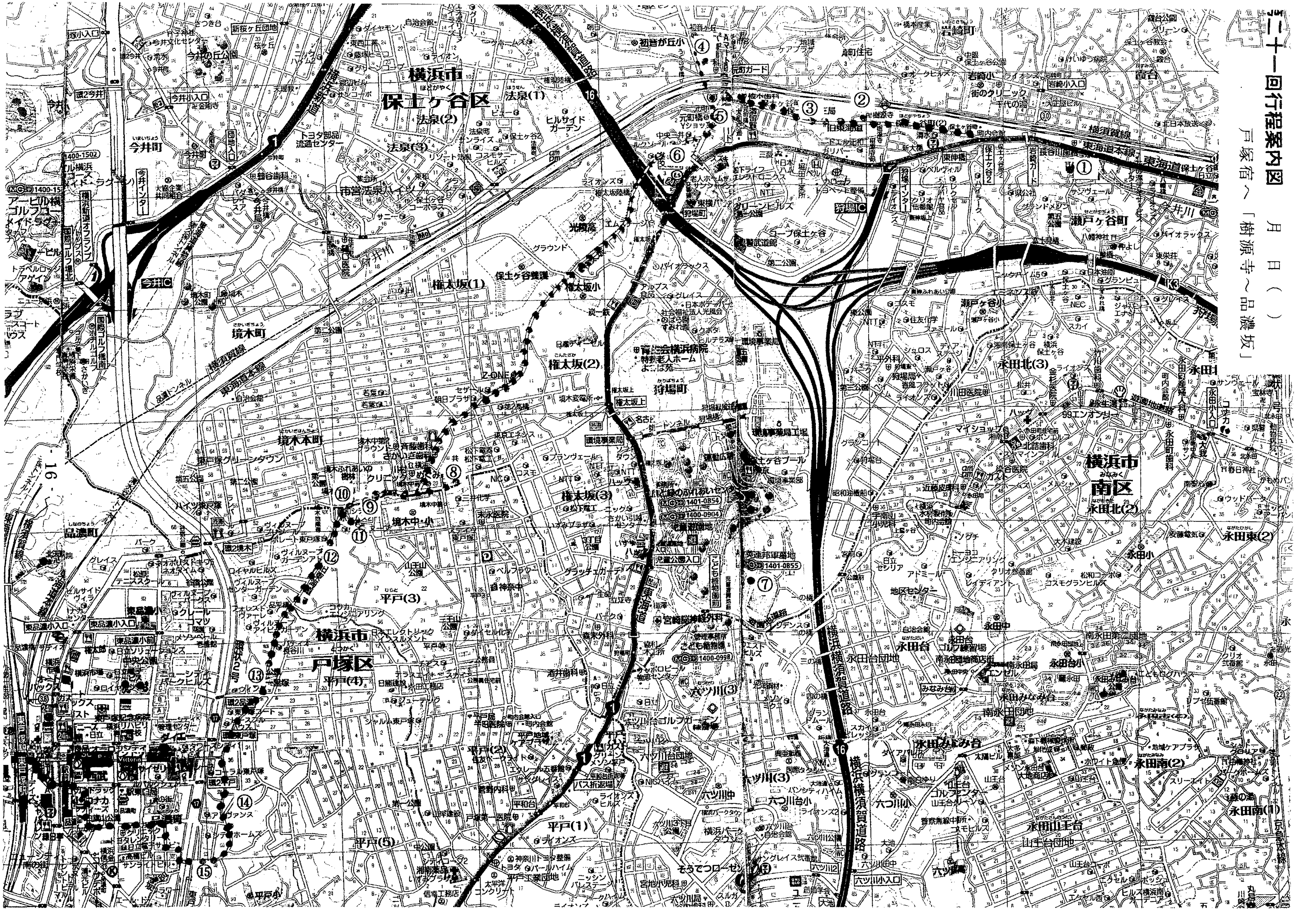
東戸塚開発に伴いこの地に移されしという。

17・品濃坂

急な坂だった，現在は環状２号線横断部分が歩道橋となり当時の面影はない。

18・白旗神社

源頼朝を祭る。嘉永二酉二月(1849)献燈の石灯籠・慶應二寅年(1866)献納の子共の狛犬を抱いた狛犬がなどがある。

第二十一回行程案内図　　月　日（　）

戸塚宿へ「樹源寺～品濃坂」